

1978年度 武井賞発表演奏会
ルネテル市ヶ谷センター



左から、清水環 今野有二 小胎剛 吉田光三



受賞曲を演奏する
兼古隆雄



宇田川 慎一



小山 文雄



小原 安正



前川 博信



鈴木 巖



芳志戸 幹雄

〈特別寄稿〉

志村清 志
宮本徳二
2つのコンサートを聴いて

小俣純雄
〈評論家〉

志村清志の音楽は、通俗性と意外性の微妙なバランスの上に成り立っている。聴衆の反応を素早く察知している。聴衆の見越した上で、ある時は聴き手が期待した通りに、またある時は聴き手が思ってもいなかったようなやり方で、しかも過ぎた後はなるほどと誰もが感じるやり方で楽句、楽曲を処理してゆく。四月十三日、虎ノ門ホールでのリサイタルで弾いた間宮芳生氏への委嘱作品、三つの聖詩ですら聴衆にいつかどこかで聴いたことがあるかのような親しみを抱かせてしまふ。プロヴェールのエチ

千六百人も入るホールということも考慮に入れても、志村はとりたてて音量のある方ではない。ラヴェルの「死せる王女のためのパヴァーヌ」でも旋律は一音一音途切れてしまひピアノ、あるいは管弦楽のような流麗さはないことでも明らかかなように余人の及びもつかぬような演奏技術の持ち主というわけでもない。にもかかわらず、志村の音楽が大きな支持を集めていることについては、聴衆の感情を先取りしてそれを演奏に即生かすだけの天分、洞察力に依るところが大きいと思われる。

問題は、すべての作品が志村色に彩られてしまっていることであろう。今日の作品群の中には演奏家と聴衆の間の親密な関係を拒否した上で成り立っているものも多い。また作者の意図が必ずしも今の志村の楽曲に対するアプローチの仕方と一致していない場合（当夜のリート曲など）もある。そういつた時、現在の志村が前面に押し出して来るものは自分の色彩であり、時代様式や作者の意図は背景に追いやられてしまっている。

問題は宮本が本質的にはレパートリーを選ぶタイプの演奏家であるという点に加えて、本来表現能力の拡大をめざして開発された筈の十弦ギターの特長が逆にレパートリーを制限してしまっているという矛盾であろう。そのため、プログラムに必ずしも一級の作品ばかりを並べるといふわけにもゆかないという結果をもたらす。個々の楽曲に優れた演奏解釈をみせつつも、コンサート全体を通して考えた時、志村のそれは比較にならない位、エキサイティングな理由もその辺にありそうだ。

これとある意味で対照的であったのが四月十一日の宮本徳二の十弦ギターによるリサイタルであろう。彼は自分の楽器の持つ特性の上に十八世紀中ごろの北ドイツの音楽の奔放さ、大胆さを移し換えることに成功した。ケルナーのファンタジアで彼が見せた感情のほらばしりは、まさにこの時代のこの地域の音楽家が共通して持っている筈のものであった。宮本は現代スペインの作曲家ゴンバウの作品にも優れた解釈をみせた。作品のもつウィットを作曲者の立場に立って表現してみせたのである。この演奏におけるリズムの洒脱さ、音程跳躍の意外とも思われる程のおもしろさは一に彼のこういつた基本的態度に依っている。

く融けあつて、まさに佳演であつた。練習曲第七番は、音階とトリルに於て、原の持つ技巧がいかに発揮された。最後のブリテンのノクターナルは庄巻だった。曲は、それぞれに形容的標題を持つ九つの曲からなる広い意味での変奏曲ともいえるもので、終曲にこの曲のテーマともいふべきダウランドの四声歌曲が姿を表わすしくみの内に神秘性を包み持った精神的に高度な大曲である。まさにこの演奏に於て、先に書いた構造の明せきさ、内的論理と幻想的即興性を融合すること、原は見事に成功したと言える。（記 近藤正典）

東海道線 大船駅
横須賀線 大船駅
ギタ―教室
宇賀神 昭 主宰
録音市岡本 38 1-7
リブ大船一F三
0467-4517703

(社)日本ギター連盟公認
谷口ギター研究所
ふじの音楽センター
(谷口進・長岡寿一) (休)PM 5:30~
三好郡池田町 〒778
☎(08837) 2-0200

三野教室
徳島県三好郡三野町加茂の高45-1
☎(08837) 3985 〒771-23

鈴木よし江ギターリサイタル 〈賛助出演 小原安正〉

プログラム Duo サラバンド
ソロ パーのラバンド
ニつのサン組曲
スベのイネ
ハバ方国"よりNo. 5, No. 2
ド三ツのツレリ
波ゴッホ(委嘱作品, 初演)

J.M. コムテル
J. ローゼンミューラー
J.Ph. ラモーン
G. サルナス
E.O. ハウス
M. エスファ
H. テラ
H. 林宗 像

1979年 5月15日(火) P.M. 7:00 青山タワーホール ¥1,500
後援 (社)日本演奏連盟 (社)日本ギター連盟 ギタリストス20世紀 協賛 日本楽器銀座店
●入場券取扱店 (株)ギタラ社 TEL.409-3395 ●お問合せ TEL.313-6852(高林)